

インターバンクの声（2014 年 7 月 4 日）

この数字でもドル円相場は35銭程しか上がりません。前日のADP雇用統計よりさらに市場予想を上回る結果となった米雇用統計でしたが、ドル円相場は指標発表前の101円90銭台から一気に102円に乗せたものの、直ぐに息切れして102円20銭前後に留まったままニューヨーク市場を終えてしまいました。

最近の米雇用統計発表後は、非農業部門雇用者数の数字が良くドル買いとなっても、その後すぐにドルが反落する傾向にあったことや200日移動平均線にとって代わる102円20銭前後にある90日移動平均線の話が広がったことが上値を重くしたようです。もっとも一番の理由は、米独立記念日に始まる3連休を前にニューヨーク勢が早々に休み気分に入ってしまったことにあるようですが、もう一つの大きなイベントだった欧州中央銀行（ECB）の理事会も、ユーロ相場を揺るがすようなこともなく済んだことも影響したようです。昨夜の米雇用統計結果であれば、いくら何でも50～60銭程度のドル買い反応があっても良さそうなものだと思いますが、市場はドルが一回ドスンと下落する局面でも期待しているのでしょうか。

今日はさすがに動かない一日となりそうですが、週末に来週以降の相場展望を見直す必要があるようです。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。